

銀座街づくり会議

〒104-0061 東京都中央区銀座4丁目6-1 銀座三和ビル3F

PHONE: 03-3567-1535 ● FAX: 03-3563-0236 ● E-mail: ga-tpc@ginza.co.jp

● このNEWSLETTERは、銀座通連合会会員、銀座街づくり会議関係者の方々にお送りしています ●

1月21日・中間報告会の内容報告も今回で最終回となりました。引き続き小林博人さんからの報告をご紹介します

します。小林さんは多くのビジュアルを用いて説明下さいました。ご覧になりたい方はぜひご連絡下さい。



「銀座街づくり会議」:: 中間報告会

銀座にふさわしい空間とは？ 考えよう。21世紀・銀座のまちづくり



第4回 小林・横デザインワークショップ・小林博人さんからの報告 その2

銀座の「にぎわい」と「風格」をつくりあげてゆくためには

銀座ルールのコンセプト

その2「風格」

では、もう一つの核となる「風格」とは何でしょうか？
銀座には江戸時代からの構造があり、整然とした街並みとアベニューがあるということが骨格の部分となっており、そこに建つ建物の壁面と軒高がだいたい揃っています。この整然とした街並みが「風格」をつくる要素となっているのです。また、車優先で歩道が車庫のためにどんどん切られていくようなまちではなく、歩くことが前提のまちであるということが、非常に高い空間の質をつくっています。

「銀座ルール」は、階高を高くして豊かな空間の質が保たれるように考えられています。また、整った街並みを維持するために、建物の最高高さを設定すること、壁面をあまり下げずにそろえることが決められています。

今回お配りした「銀座ルール」のパンフレットは、中央区のルールが全部載っているわけではありません。エッセンスだけわかりやすい形で載せたものですので、ご質問等ありましたらおっしゃって下さい。

銀座の空はどうなる？

以上のように、地区計画「銀座ルール」の根本的な考え方は、銀座の「にぎわい」と「風格」を高めてゆくことです。今回、松坂屋さんのプロジェクトのなかで話題となっていることに、建物の高さやボリュームの部分がありますが、もうひとつ、建物がどういうふうに見えるのかということが一つの大きな焦点になるでしょう。

現在、三井本館の隣の建物を超高層ビルに建て直している日本橋でケーススタディーをしてみますと、空が大きく切り取られていることがわかります。日本橋は場所柄オフィスビルが多いこともあって、ビジネスのセンターとして

再生させようという大きな目的があり、このビルは日本橋の柱となる重要なプロジェクトです。オフィスが主要な用途で、一番上にホテルがあります。

では、日本橋とは性格の違う、銀座という場所のコンテクストのなかでは、どういうものが建って、それがどう見えるべきなのでしょう。 「スカイスクレーパー」というのは「空を掻き取る」という意味の言葉ですが、通りから見た建物の見え方や空の見え方は、今後大きな問題になってくるでしょう。 どういう見え方なら、銀座らしさを保持できるのか、どうだったら銀座らしくないのか。これからみなさんでいろいろなものを題材にして話し合いながら回答を見つけていく過程が必要です。 私たちはさまざまな資料を提示しながら、それをお手伝いできればと思っています。

銀座の自然を考えたときに、植栽の問題もありますが、空も大きな要素です。季節や時間によって色を変えていく銀座の空を、これからどう見せていくのか、今後大きく問われると思います。

今回は皆様に少しでもわかりやすく、銀座ルールの考え方をまとめてみました。松坂屋問題も含めて、ボリュームの問題、建物の見え方の問題、銀座ルールを越えて行く場合に、果たしてどういう方向性があるのかということは、銀座の将来にとって大変重要な、よく考えていかなくてはならない問題だと思います。

最後に、地区計画は、特定街区制度や都市再生特別措置法等、他の制度との運用によって、適用のされ方が変わる場合があります。その際に銀座のルールをどう扱っていくのかということも、これから議論しなくてはならない部分だと思います。

【 当日配布した資料「地区計画『銀座ルール』の考え方」を差し上げます。 当日のビデオをお貸し出します。各町会、通り会、お店等でお役立てください。 】